

プレビュー版

「赤字といいますが、この内容では絶対に黒字にはなりませんよ」

「えっ！？そんなんですか」

「はい。酷いというか醜いと思いますね」

「何がですか？」

「金利です。足利銀行というのは、こんな商売をしていたのかと・・・」

「具体的にはどういうことでしょうか？」

「多分、全部を計算してみたわけではないですが、何年か実勢金利を比較したんです。そうしたら足利銀行の金利は手形割引も長短期の貸付も、ほら、平均で2%くらい高いですよ。」

「そんなんですか？総て？」

「じゃないですか。これを10年分で換算すれば・・・えっと、12億円くらいになります。概算ですけど。」

「えっ！？」

「そうですね。だからもつと長期なら現在の債務はほとんど過剰金利分ですよ」

「・・・・・・・・」

「星野金属工業は足銀にとってはドル箱でしたね・・・」

私は唖然としました。私は、かれこれ10年ほど前に、資金繰りから市内の信用金庫で短期資金を調達したことがありました。3千万円くらいだったと思いますが、その折に担当者が

「本当に申し訳ない金利なんですけど・・・」

とって提示してきた金利が足利銀行よりも0.5%低かったのを思い出しました。

「そういうことなんだあ・・・」

総てはメインバンクに対する依存度が高く、そして金利には無関心だった社長（父）も含め、もっと金利交渉をきちんとするべきだったのでしょう。しかし、私が交渉してもまったく回答さえ出でこなかったのだから、無理だったのだろう・・・と後悔しました。そしてもう一件指摘がありました。

「あと、SK社というところから機械設備を大量に購入していますね？」

「はい。そこは社長の既知で・・・」

「特別な会社ですか？」

「ではないと思うけども、私には（機械購入および業者選択の）権限がなかったので・・・」
「そうですね。この金利は一体なんだろう？平均21%ですよ！」

「えっ？」

「知らなかったのですか？」

「はい・・・」

「ここだけで10年間で約18億の金利払ってますよ。割賦手形でも・・・10億は多いでしょう・・・まっとうな業者ならね」

「・・・」

「だから星野金属工業株は非常に利益の出る会社だったと思いますよ。通常ならこういう（業種の）企業では優良でしょう」

足利銀行に対する金利支払いで「過払い」と言える分が12億円、そしてSK機械に対する「過払い」といえる分が10億円・・・。それは見事に現在の足利銀行に対する債務金額と一致していました・・・。

星野金属工業株買収スキームの進行と同時に、またしてもソルダム内部で不祥事が発覚していました。今度は一営業担当者の問題ではなく、常務取締役自らが原因となっていました。まず、8月に入ると大手量販店との契約がこじれてきました。そして、一旦合意した（と報告された）商品の販売が、急に中止となる事態に直面したのです。それは、コンプリートパソコンだけでなくキーボードやマウス、液晶ディスプレイ、メモリ・スティックといった周辺機器群の充実を目的として、常務自ら台湾へ仕入れに出かけ、7月、8月に入荷した大量の製品の販売目処が立たなくなったことを意味しました。この在庫は総額6千万円を超えるもので、当時のソルダム株式会社にとってはまさに致命的ともいえる余剰在庫でした。5月に資金手当てをして立て直したばかりのビジネスでまたしてもこのような事態に陥るといえるのは、まったく納得ができるものではありません。私は、客先と交渉を開始しましたが、相手の量販店は

「そのような約束を交わした覚えはない！」